



2022.12.15

初冬の里山は、いつの間にか木々の間や茂みを移動する鳥たちでにぎわい始めました。この冬一番の寒さを更新する日々、そのような中、年末の恒例イベント「お正月飾り作り」を行いました。今年は、例年になく赤い実がたわわに実り、はっとするほどの美しさでした。思わぬ発見は散策の楽しみです。

初冬の 堂谷津の里



ジャノヒゲ



キタテハ



ウラギンシジミ



オオアオイトトンボ



カラスウリ



ナンテン

生きものの 冬越し



オオムラサキ・ゴマダラチョウ幼虫



湿地のコガマ



オオカマキリ卵

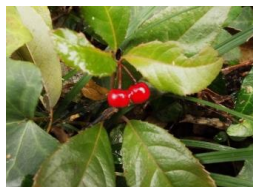


セグロセキレイ

<季節メモ> 金生樹：縁起のよい木

常緑低木のマンリョウ「万両」は、実をたわわに実らせ、冬が終わっても実が残っているのでお金が出ていかず、貯まっていくことを連想させることから、この名前がついたそうです。縁起がよい名前からお正月の飾りに使われます。赤い実は鳥には人気がないのか、晩秋から翌春まで見られます。

同じ時期に赤い実がつくセンリョウ、カラタチバナ、ヤブコウジ、堂谷津の里では自生種は見られませんが別名「一両」のアリドオシ、いずれも縁起がよい木「金生樹」と言われます。



ヤブコウジ (十両)



カラタチバナ (百両)



センリョウ (千両)



マンリョウ (万両)



お正月飾り作り